

実践教育プログラムの参加募集について

数理・データサイエンス教育研究センター

数理・データサイエンス教育研究センターでは、文系・理系を問わず、様々なデータを適切に扱うことができる数理・データサイエンスに関する素養（数学、データ分析等）や、各自が習得する専門分野においてデータを扱う実践的な力を養う教育に取り組んでおります。

また、データに基づくコミュニケーションにより他者との協働を可能にする展開力を有する人材育成にも取り組んでおります。

本センターでは、学部学生及び大学院生（修士課程の学生のみならず、他の課程に属する大学院生も含む）を対象とし実践的な力や展開力を養成する教育プログラムを提供します。

1 実践教育プログラム

① 概要

このプログラムでは、卒業論文、修士論文などの研究における課題（自由課題）や企業・地方公共団体から提供される課題（企業課題）において、学生がその解決や企画提案を行う PBL（Project Based Learning）演習を行います。PBL 演習を通じて、データ解析の技法（情報科学・数学・統計学に係る話題も可）である実践的な力を養成いたします。

後期は企業課題の募集を行います。企業課題では、募集課題へ応募の上で課題解決の演習を実施します。プログラム終了時には、最終レポート（別添様式）を提出してもらいます。

② 実施形態

- 企業課題（令和 6 年度試行）

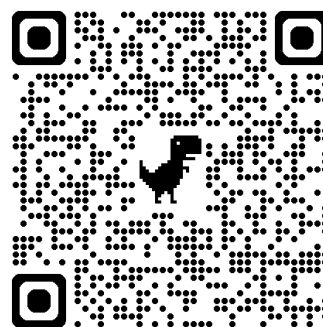
※参加企業と課題の詳細は別紙 2 を参照

- 課題の紹介
- 課題提供元と協力して課題解決の演習
- 課題提供元へのプレゼンテーション
- 最終レポート（別添様式）の提出

③ 募集およびエントリーの方法

本プログラムは、所属する課程や文理を問わず、全ての学部学生及び大学院生を対象にしています。希望する学生は、以下の Google フォームよりエントリーしてください。企業課題の受付は、令和6年12月27日（金）まで行います。エントリー期限の終了後、指導等の実施方法について案内いたします。

企業課題 令和6年12月27日（金）まで
<https://forms.gle/Du3W9dd53tvqLSYo9>



過去に受講した学生のテーマや感想を下記 Web ページより参照できます。

<https://www.mdsc.hokudai.ac.jp/curriculum/pbl/>

④ プログラム修了について

最終レポート（別添様式）を提出した学生はプログラム修了を認定し、希望者には修了証を発行します。

（本件担当）

学務部 学務企画課大学院教育改革推進室

数理・データサイエンス教育研究センター担当（石水）

011-706-2171

mdsc@academic.hokudai.ac.jp